



■「共感する、つなぐ、伴走する」■

第9回成人発達障害支援学会(12月3、4日)に参加して

昭和大学附属烏山病院リハビリテーションセンター作業療法士 川畑啓

第9回成人発達障害支援学会が2022年12月3日・4日に岡山国際交流センター(岡山県)で開催されました。私は岡山県に8年ほど前に訪れたことがあります。当時、バスの中に財布を落としてしまい一文無しになってしまいました。タクシーの運転手に事情を説明し、財布は無いながらもバスの終着点まで快く送り届けて下さったご恩のある場所でした。

学会は「共感する、つなぐ、伴走する」のテーマのもと、様々な講演や企画、ポスター発表等がありました。今回は私が参加したプログラムの中から一部を紹介させていただきます。



同居と独居で生活スキルに差はあるか

<学会理事会企画:シンポジウム1 発達障害と親亡き後>



昭和大学発達障害医療研究所精神保健福祉士の五十嵐美紀先生からは、当事者・家族の親亡き後への認識調査と支援の検討からというテーマで報告がありました。昭和大学において社会参加できている197名のASD当事者のうち110名が親と同居しており生活面全般を頼っているとの調査結果がありました。実際に問題が生じてから対処することが多いため、自立促進プログラムの開発が行われていることが報告されていました。聖心女子大学助教の小峰洋子先生からは、発達障害を持つ方への生活スキルの現状を測定する簡便なツールがないことを指摘され、簡便な生活スキルアセスメントツールの作成と実施の報告がありました。興味深かったのは同居―独居間で実行力に差が認められた項目は「洗濯」「ゴミ出し」「窓口の手続き」であり(独居の人の方が実行力がある)、それ以外の実行力の差は認められなかったとの報告でした。私としては、「食事の準備」や「部屋の掃除」などは独居の人の方が実行力があると思っていたのですが、統計上はあまり変わらないという結果に驚きでした。生活スキルの習得状況は同居の有無に関

わらず人それぞれであるため、より本人の経験や特性に沿った個別的な支援が必要であるとの報告に共感しました。

発達障害を持つ学生と家族対象のプログラム



<ポスターセッション>



発達障害を持つ学生に対するデイケアの取り組みというテーマで発表を行いました。烏山病院では発達障害を持つ学生と家族を対象としたプログラムを実施しています。(詳細は本家族会通信 No.84,89,93 をご参照ください。) 学生に対しては自己理解編、コミュニケーショントレーニング編、就職活動準備編、ご家族に対しては心理教育や懇談会を実施しています。その結果、学生は社会適応能力の向上、「友達が出来て行くのが楽しみだった」「同じ悩みを持っている人がいて安心した」などのコメントが得られたこと、家族では精神的健康度が上がったことなどを報告しました。

ポスターセッションでは他に当事者への様々なプログラム、当事者と配偶者に関する研究、支援者の教育に関する報告などの発表もありました。さらに、岡山県を中心とした様々な支援機関(発達障害者支援センター、就労支援機

関、当事者会等)のポスター掲示もされておりました。烏山東風の会の活動紹介に関するものも掲示させて頂き、多くの方が閲覧されていました。



家族支援の重要性

<ワークショップ:成人発達障害ショートケアプログラム研修会 1部:講義>

発達障害専門プログラム研修会はプログラムの確立と普及、参加者同士の横のつながり、支援手法の精緻化を図ることを目的に2018年の札幌大会から行われ、毎回多くの方が参加されています。今回も約80名が参加していました。

昭和大学附属烏山病院の医師・佐賀信之先生から発達障害の主症状や診断、薬物療法や心理社会的治療(デイケア等)などについてお話があった後、昭和大学発達障害医療研究所の作業療法士・水野健先生からデイケアにおける実際の支援と発達障害専門プログラムの始め方などの話がありました。家族支援においては、家族の関わりが本人にも影響を及ぼすため、家族自身の健康や家族への心理教育、家族同士の繋がりを保つことの重要性が話されていました。



運営の工夫や難しさを実感

<ワークショップ:成人発達障害ショートケアプログラム研修会 2部:グループワーク>



1部の講義を受け、後半はプログラムを実際に体験し、ディスカッションを行います。

私はファシリテーターとして参加させて頂きました。担当したグループでは、すでに経験のある方、現在進行形でプログラムを行っている方、これからプログラムを始めようとしている方など様々でした。グループを体験し、改めて進行の仕方がわかった、雰囲気作りが大切だと感じたなど参加者からの感想がありました。

研修会の開催を重ねるごとに、プログラムを行っている施設が増えてきているのを感じます。各機関でのプログラム運営上の工夫や難しさ、メンバーさんへの関わり方等を意見交換できる機会にもなっています。私自身、ファシリテーターとして参加しましたが、運営の工夫や声掛けの仕方など、新たな気づきが得られました。

帰りはしっかりと財布を握りしめて、本人との関わり方について、ご家族含めた支援の重要性やデイケアプログラムの実施上の工夫についてなどを考えながら帰路につきました。



次回学会は秋の横浜で

第10回成人発達障害支援学会は2023年10月21日22日に横浜ワールドポーターズ(桜木町駅近く)で開催予定とのことです。東風の会会員の皆様もお近くかと思しますので是非参加してみたいはいかがでしょうか。

第10回成人発達障害支援学会横浜大会



日時 2023年
10/21(土) 22(日)

会場 横浜市中区新港2-2-1
JR桜木町駅徒歩10分
みなとみらい線みなとみらい駅徒歩5分

横浜ワールドポーターズ イベントホール

会長 : 柏 淳 (ハートクリニック横浜)
副会長 : 木代 眞樹 (きしろメンタルクリニック)



■「烏山東風の会」今後のスケジュール ■

■家族相談会 3月15日(水) 4月19日(水) 午後1時30分～午後4時
烏山病院 発達障害医療研究所デイルーム
専門家ではありませんが、同じ親の立場として家族会世話人がお話をお伺いします。

■烏山東風の会女子会 3月25日(土) 午後1時30分～午後4時
烏山病院 リハビリテーションセンター

■世話人会 3月25日(土) 午後1時半～

■東風の会講演会 4月22日(土) 午後1時受付

◇相談会/女子会/世話人会の申し込み・お問合せ先

：「烏山東風の会」携帯 080-3009-1200 kochinokai@au.com

：「烏山東風の会」ホームページ：<https://www.kochinokai.com> お問合わせコーナー



デイケア写真館

委員会活動プログラム 東風の会・情報委員会に参加して

委員会活動プログラムでは、東風の会・情報委員会、環境・広報委員会、デイケア便り委員会の3つに分かれて活動しています。東風の会・情報委員会では、封筒への切手貼り、封入作業、会報誌の記事作成、求人票や委託訓練の情報提供、封筒作り等を行っています。

今回は、東風の会・情報委員会の皆さんから、作業で気を付けていることや工夫していること等を一言ずつ書きました。

- ・会報誌をきれいに三つ折りするのが苦手なのですが、皆様に手伝っていただいて頑張っています。(K.H.)
- ・三つ折りするときにはしっかり折り目をつけて折ることで、封筒に入れたときに厚みが出ないようにしています。(Y.)
- ・三つ折りをするとき正確な位置で折るように心掛けています。(R.S.)
- ・封筒の枚数を確認するとき住所のスタンプの番地が消えていることがあるので、チェックしながら作業しています。(A.K.)
- ・切手をまっすぐ貼るのが難しいので、上下左右に1cm間隔を開けて丁寧に貼ることを意識しながら作業を行っています。(K.K.)
- ・封筒を作るとき用紙からまっすぐ切るようにしています。(A.S.)

この委員に入っすぐの慣れないメンバーも多いのですが、みんなで力を合わせて頑張っています。(R.S.)

